寄田幸司が行く 自分捜しの旅 in 中国

～ 20年の時を経て　今思うこと ～

ほんの少しの勇気と行動力を持って人生を旅する　寄田幸司

はじめに

今回の小冊子のテーマは、ズバリ「旅愁」。
人はある時、ほんの少しでも、取り巻く現状を離れ、
自分を冷静に見つめ直すことが必要です。そのため、旅は絶好の機会です。

異国を旅することで、自分自信を再認識し、
「今の自分を異国で、ほんの少しの孤独感と共に見つめ直す」
ことが出来ます。

いつものように前置きが長くなって申し訳ありません。
約20年前、私は中国を訪れました。
無事歯科医師国家試験が終わった、大学卒業直後でした。
社会人として、新たな人生を踏み出す学生生活最後の春休み。

私は何故か中国へ、旅してみたくなったのです。
中国を選んだことに、特に深い意味はありません。
金銭的予算や、旅行の日程、その時の気分で決めました。

そして約10日間、いままでの学生生活を振り返り、
これから始まる、夢と希望の歯科医師人生の
輝かしい第1歩をスタートする勇気を得るため、旅にでました。

今回の小冊子は、その20年前の旅を、今振り返ってみようと思います。
しかし、それだけではノスタルジーにひたることになってしまいます。
過去を懐かしむだけでは、進歩はありません。

2005年11月、20年の時を経て、再び訪れた中国上海で、
さまざまな体験をしました。
その体験を通じ、何を感じたのか、今後自分が本当にやりたいことは？

是非ヨリタマニアのあなたに、知って頂きたいと思っています。
ご興味のあるあなたは、最後までお読み頂ければ嬉しいです。

人生の旅人　寄田幸司

まずこの写真をご覧下さい。
これは、約20年前、24歳の私です。すなわち昭和62年度の
卒業式修了直後に大学のキャンパスにて撮ったものです。

「あなたはこの写真をご覧になって、どう感じましたか」

●24歳なのに、老けているな
●今と、あまり変わらない
●そんなこと、興味がないのでど～でもいい！！

まあいろんな意見が出ました。
（小冊子を作る前に、メンバーに見てもらいました）

ただ、今でもはっきり憶えている事は、

●早く、一人前の歯科医師になりたい
●早く、周囲の人に認められたい
●そして、自分の実力を試したい！

ですから、その時の私は
やっとこの日を迎えることが出来たという充実感でいっぱいでした。
そして、その私が次にとった行動は。

気が付くと、こんな所にいました。

この写真は、香港から広州（中国）へ向かうため、パスポートを握り締め、
駅のホームに立つ私です。

卒業式から2日後、すでにここにいました。
就職までの短い春休みを、少しでも有効に使うため、即行動しました。

まずは香港経由で、中国に入りました。旅の出発点は、広州。
広州は、古来より中国の海の玄関口として発達してきた、
華南最大の都市です。
「食は広州に在り」と言われるように、
豊富な食材も、お目当ての一つでした。

広州では、主に市内観光をしました。
中山記念堂は、中国革命の象徴的人物である孫文を称え、
1931年に広州市民と華橋の寄付により、建てられた記念ホール。
中国宮殿式の建物で、大空間に柱が1本もないのが特徴です。

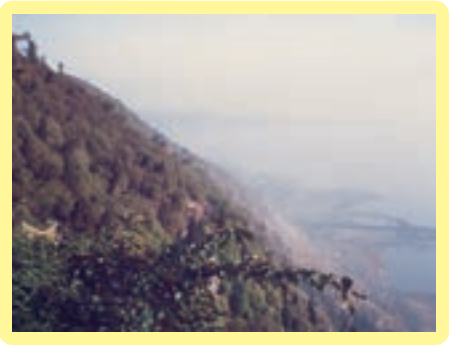
そして次の目的地、桂林へ
桂林はここを起点に陽朔まで下るリコウ下りで有名。全長437ｋｍ。
特に桂林から陽朔にかけての約83ｋｍの一帯には、
奇岩奇峰が延々と立ち並んでいました。文字通り山水画の世界です。

そしてさらなる訪問の地は成都。
成都は三国時代には、劉備が建国した都として発展した古都です。
四川料理の本場でもあります。

そして昆明へ。
町の名はこの地域に住んでいた「昆明族」からとられたもの。
海抜1900mの高原にあります。
私は、市内の西山森林公園の絶壁にある展望台へ。
ふもとの道明寺院、三清閣から1333段の石段を登ると
龍門にたどりつく。半円形に張り出した展望台からのながめは絶景。

そして昆明の南東約100ｋｍにある石林へ。
そこには3億年もの風雨に削られた、カルスト地形が広がっています。

とまあ、あっという間の10日間の旅でした。この間感じたこと。
ホテルや、博物館、お土産やさんなど、
外国人向けの所は、全て2重価格になっています。
それくらい20年間は、人民元の評価は低かったのでしょう。



旅先で出会う人たちも皆、人生を楽しんでいるように見えました。

生き生きと輝いているように、見えました。このときの私も、
たぶん周囲からは、全く同じように見えたのではないでしょうか。

大学を卒業したとは言え、国家試験の発表はまだ。
歯科医師の免許もない、当然仕事もしていない、もちろんお金もない。
あるのは熱いハートのみ。その中には、今からやらなければならないこと、
いややりたこと、すなわち大きな夢が一杯つまっていました。

夢の実現のため、学生時代から出来ることは積極的にやって来ました。
歯科の技術を磨くためには、大学６年生の臨床実習では、
大学病院に訪れた患者様を誰よりも多く、診させて頂きました。

そのため、多くの入れ歯やかぶせも、自ら作製することが出来ました。
たとえ学生であっても、
多くの事を、この臨床実習から学ぶことが出来ました。

また、大学以外から学ぶ事も、多数ありました。
私はこれからは、たとえ医療であっても、
きちっとした接客対応が、必要であると思っていました。
医療に対する知識や技術は、大学で学べても、
接客・接遇やもてなし（ホスピタリティー）は教えてくれません。

そこでアルバイトに通い、学ぶことにしました。
学生時代、一番人気のアルバイトは家庭教師や塾の講師。
時給もよく楽だったからです。

しかし、学生の時から、訪問先の家族や塾の生徒から
〝先生〟と呼ばれるのは、かなり抵抗がありましたし、
浮かれている場合ではないと、感じていました。

そのためバーのウェイター、ホテルのフロントマンなど、多くの人と、
笑顔でコミュニケーションを取ることができる、職種を選びました。

３年後、５年後の成りたい自分を明確にしていたからこそ、
他人から見れば、もっと楽すればいいのに、
要領良くやればいいと思うことでも、一生懸命取り組めたのでしょう。
失うものは、何もありませんでした。

あの時から、早20年の時が過ぎました。
そんな中、今回中国上海を訪れる機会に恵まれました。
これも何かの縁かと思い、研修ツアーに参加することにしました。
以下はその報告です。

2005年11月10日、上海研修(1日目)

2005年11月10日、今日から４日間、私は中国・上海に来ています。
目的は、中国歯科事情を学び、あなたにより快適で安心して
来院して頂くためです。

まず、上海国際空港に到着した私たちを待っていたのは、
リニアモーターカー。
ギネスブックにも「世界最速の商業列車」として登録されています。
なんと、最高速度は時速431km。
上海浦東空港から、龍陽路駅まで約８分。
費用はＶＩＰ席で100元（約1300円）。あっという間の旅でした。

上海市内にはタクシーで入りました。市内に入りビックリ。
うわさでは聞いていましたが、上海は私の想像をはるかに超える
大都市でした。人口約1700万人。

人と自転車と車、そして高層ビルやマンションが乱立する
活気あふれる街です。今、中国では10%を超える経済成長率をほこり、
まさにバブル経済真只中。ここ10年で大きく様変わりしたようです。

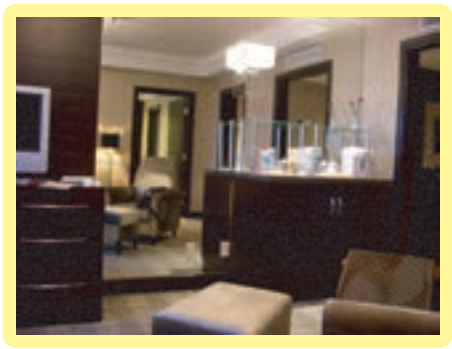
宿泊ホテルでは日系のオークラ ガーデン ホテル上海です。
このホテルは1926年に建てられたネオバロック様式の建物。
内装はアールデコ調。廊下や室内も、シックでかつモダン。

私たちがリザーブした部屋は、エグゼクティブルーム。
そのためチェックインもエグゼクティブ ラウンジを使用し、
スムーズな対応を受けることが出来ました。

またここでは、少し贅沢なサービスを受けることが出来ます。
私は中国語は全く話せません。

しかし、エグゼクティブ ラウンジには日本語の出来るスタッフが
常時滞在しており、その事だけでも、かなり安心感が持てました。
新聞や雑誌も日本版があり、モーニングもゆったり取ることが出来ました。

また部屋もセパレートタイプのスイート。
生花やウエルカムフルーツ、
そして、ネーム入りのメッセージカードなどがさり気なく置いてあり、
これから始まる４日間の快適な旅行が
心地よいものである予感を、感じさせます。



チェックイン後、まず旅の疲れを癒すため（？）私は足裏マッサージへ。
私にとっては初体験。中国では、足は第２の心臓と言われています。
そのため、足浴は人の身体の免疫力を高め、
多くの病気を防ぐことが出来るそうです。

日頃の疲れや睡眠不足の解消には、もってこいでした。
約80分で、費用は1300円。異国の地でリフレッシュ出来ました。

あなたも是非、本場中国での足裏マッサージ、
機会があれば体験してみては（少し痛かったですが）？

そして、上海での初めての歯科医院見学。ホテルの近くの高級ブティックが入るビルにある歯科医院です。日本の歯科大学に留学し、大学院卒業後、地元上海で開業した、リュウさんのデンタルオフィスです

フロアは約60坪ぐらい。全て完全個室で、ユニット６台。
本当にうらやましい限りです。
中国では基本的に歯科診療は全て自費。
そのため、明らかに富裕層をターゲットにした医院です。

夜はホテル近くのレストランで、円卓を囲み食事をしました。
今は上海ガニが旬。10月まではメスのほうがおいしく、
11月からはオスのほうが食べごろだそうです。
カニの性別は裏を返して、判別するそうですが、
私には、よく分かりませんでした。

…… 2005年11月11日、上海研修（2日目）……

今日はいよいよ、現地視察ツアーです。まずは㈱ニッシン上海工場の見学。
案内は㈱ニッシン。私たちは、チャーターバスで、ハイウェーに乗り、
約1時間強の昆山へ。

昆山はこの10年間で、人口16万人から120万人に急成長。
さすが計画経済の国。日本では考えられない事です。
あっという間に、大きな道路が出来、周囲には高層マンション群が生まれ、
その周囲には緑が植えられたそうです。

この国では一般的なマンションで、３ＬＤＫ　約120～150㎡
天井の高さ2.8mで約800万円くらいだそうです。

話がそれましたが、㈱ニッシンは歯科業界ではお口の模型などで有名。
日本でのシェアは95%です。
私も学生時代実習では、大変お世話になりましたし、
今も当院では、ドクター、衛生士向けの顎模型があります。

工場の玄関には、企業理念が掲げてありました。

専務の宮本さんによれば、「物作りを通じた、人作り」だそうです。
ここでの工場見学を通じ、私はニッシンの物作りへのこだわりを知る事ができました。まず模型で言えば全ての注文に完全に答える。

すなわち注文に応じ、一つ一つハンドメイドで作成するということ。
そのため、過去の製品サンプルは、6万件にものぼるそうです。

そして、ほんの 小さな気泡やキズ一つでも見つかれば、
決して製品として出荷することはありません。
たとえ人件費などのコスト削減が目的で上海に進出したとしても、
その理念やコンセプトまでは、決して変えない強い姿勢が感じられました。

いや、逆かもしれません。一つ一つ手作りのハンドメイド製品、
しかも製品のレベル基準が私たちが見ても
「そこまで厳しくしなくても」と思うくらい高い。

その品質を守りぬくため、あえて人件費が安い、
そして人の確保がしやすい、この地を選んだのでしょう。

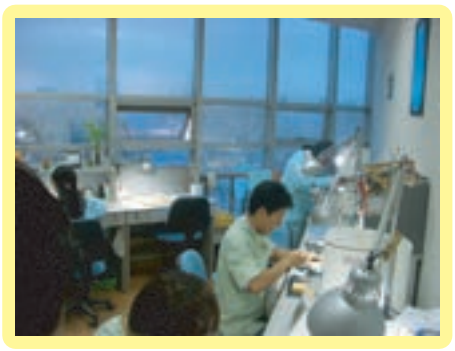
そしてその思いに集まった人が、たとえ生活のためとはいえ、
誇りややりがいを持って働いている。
その姿勢を、私は目の当たりにしました。
この工場見学を通じ、㈱ニッシンのファンになりました。
普段は決して見ることの出来ない工場内部をくまなく案内、
説明して頂き本当に感謝しています。

また社員食堂で、従業員の方が食べる昼食まで体験させて頂きました。
いや～美味しかったです。

その後日中歯科医学大会2005の会場へ。
このコンベンションセンター国際ホテルも、巨大ホテルです。
参加者で大変にぎやかでした。

私は学会には参加せず、市内の技工所見学へ。名前は上海和生精密。
この技工所は3つの支店を合わせると、
スタッフ150人程の現地では中型規模の所でした。

とは言え、ビルの28階、フロアは400㎡。私のイメージする技工所とは
大きく違い、清潔でクリーンな印象を受けました。



女性スタッフも多くいました。また保険制度の違いを感じました。

日本は保険中心、中国では保険ではほとんど治療が出来ないので、
自費が多くなります。それが技工物（かぶせ物）にもよく表れています。
臼歯（奥歯）が、ほとんどセラミックでした。

そのため技工士さんも、時間を気にすることなく、
（数をこなす必要がない）、仕事に集中できるのでしょう。
技工士さんの目が輝いている人が、多かったです。

ここで現代の、中国歯科事情について。
2005年10月現在、中国の人口は13億を超えています。
国土は、日本の25倍です。

1978年から始まった、一人っ子政策にも関わらず、
未だに人口増加率は1.07%。
ピークは2030年16億人に達するそうです。ちなみに平均寿命は71歳。

歯科業界の話に移りますと、登録歯科医師たった56000人。
都市部で、人口3万人に対して1人。
地方では10万人に対して、1人しかいません。
日本では約2000人に1人。
ということは、中国では圧倒的に歯科医師不足です。

そして基本的には治療は自費。私たちがあなたにお話しているような、
歯をむし歯や歯周病から守るという考えは、まだ根付いていません。
インプラントや矯正治療も、ほとんどありません。

今の歯科事情を反映した、病院見学に行ってきました。
上海市第十人民医院（国立病院）付属の歯科医院です。
歯科医院というより、歯科の総合病院（4階建て）にいった感じでした。
正式名称は口腔医病保険中心。

4フロアーごとに、受付があり、
受ける治療内容や費用により、階が分かれています。
上に行く程、1日の治療時間を良く取り、
より高度の治療を行うことが出来ます。当然費用も高くなります。
また、各診療室が全て個室になっています。

上の階の診療室には、ソファーやテーブルなどの応接室も
併用されています。心からリラックスして、ゆっくり会話を楽しみながら
治療を受けて頂く事が、出来るようになっていました。

夜は巨大ロブスター、アワビなどの本格中華料理を堪能しました。
今日一日で、本当に多くのことを学びました。
特に中国は日本と違い、階層社会があることを改めて実感しました。

街中では怪しい歯科医院（無免許？）も、あるとのことです。
ここでは十分な設備もなく、私なら恐くて入れない所もあります。

その反面、自費ということもあり、
専用待合室やアロママッサージなども、同時に整える
高級サロンのような、歯科医院も存在しています。
このギャップは、今の中国をそのまま現しています。
たった1日で、その事が良く分かりました。

2005年11月12日、上海研修旅行(3日目)

今日は上海をさらに深く知るため、主に観光です。
まずは上海きっての観光スポット「豫園」に行きました。
ここは面積2万㎡の広大な中国式庭園が魅力です。
元は四川省の役人が作ったもの。今日は土曜ということもあり、
多くの人々が訪れていました。

この雑踏のなかで、お茶を買ってきました。
私はジャスミンティーが大好きなので、
お茶の専門店で、ジャスミンティーの詰め合わせを買いました。

その後、黄浦江近くの外灘に行ってきました。
ここは、20世紀初頭に建てられた、
モダンでレトロな建物が立ち並んでいます。そして、黄浦江沿いの
プロムナードを、風に揺られながらゆっくり散歩しました。
対岸に生える、浦東の超高層ビル群と、
外灘の近代建築の建物とのコントラストが、不思議な雰囲気でした。

浦東新区にそびえる、高さ468mの東方明珠塔と呼ばれている
テレビ塔へも行きました。
その高さは世界第3位とか。私は高さ263mの中球まで登りました。
高さ350mの上球はあまりの混雑に行けませんでした。残念。

しかし、中球からのながめもかなりのものでした。
なぜか、自分が偉くなったような気分に浸れました。
（私は、根が単純なので）。

さらに夜は、私が最も楽しみにしていたものの一つ、
上海雑技団を見に行ってきました。
私のイメージとしては、レベルの高い曲芸集団と思っていましたが、
そのレベルを、はるかに超えていました。

バックのスクリーンに、映し出される映像美、
一つ一つの動きにあわせた、生演奏のバックミュージックやコーラス。
まるでラスベガスでショー（行ったことはありませんが）
を見ているような、ステージでした。

しかし、きらびやかというよりも、時間がゆっくり流れていくような、
そんな不思議な世界です。これは是非見て下さい。上海でのイチオシです。

ということで、3日間本当に中身の濃い研修旅行でした。
大阪からたったの2時間。新幹線でいえば、東京より近いくらいです。
また機会があれば、是非訪れたい都市です。

おわりに

私が一番感じたことは、ここで出会った人全てが一生懸命生きている。
ということです。

中国政府の開放政策の影響で、外資企業が沿岸部に、
どんどん投資しています。そのため、内陸から人が集まってきます。

夢と希望とお金を求め、明日はもっと生活が豊かになる、
もっと幸せになる、夢が叶う。

そのため、今たとえ貧しくても、生活が苦しくても、弱音や言い訳そして
人のせいにせず、忍耐と努力、
そして決してあきらめない強い精神力を持ち、一生懸命働いていました。
それがヒシヒシと伝わった4日間でした。

最後までお読み頂き、本当に有難うございます。
私にとってもこの２０年間、結婚や歯科医院開設、拡大など
激動の期間でした。引越しだけでも７回経験しました。

今私があなたにお約束すること。
私達もメンバーと共に、志を高く、思いは深く、夢は大きく、
感謝の気持ちは誰より広く、持ち続けます。

そして私達の医院は、忍耐と努力、そして強い精神力を持ち、
今後さらなる高度成長を続けます。

一生懸命生きること、それは、あなたに愛される歯科医院を作るため、
私たち自身が光輝くため、最も大切なことだと確信しています。

人生の旅は終わらない　寄田幸司